

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103169
法人名	有限会社 幸心
事業所名	グループホームつばさ
所在地	愛媛県松山市姫原3丁目3-7
自己評価作成日	平成22年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>毎月「つばさ新聞」を発行 毎週ブログ更新 月に1度のイベント 家族参加のお花見、七夕祭り、お月見 2ヶ月に1回、介護職員全員参加の勉強会</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●恒例の「観月祭」の行事には、日頃から職員と利用者で練習してきたハンドベルの演奏を披露された。毎月発行する「つばさ新聞」は、ユニットごとに作成されており、日々の暮らしの中で、職員が利用者の表情等のシャッターチャンスを見逃さず撮った写真を多く載せて新聞担当の職員が、コメント等も入れながらご家族に向けて作っておられる。又、ホームのブログ「姫ブログ」の更新や日々の食事のメニューを決めたり、さらに2ヶ月に1回の勉強会のテーマ等も職員で順番に担当されている。</p> <p>●行動指針の一つに「心のかもったあたたかい食事を、おいしく食べてもらえるよう心掛けます」と掲げて、事業所では、「手作りの食事」を利用者においしく食べてもらえるよう取り組まれている。野菜は、近くの八百屋に注文して、利用者と一緒に取りに行くようにされている。食材を小さく切って支援される場合でも、好きなものは、形をそのまま残るように切る等、工夫され、職員は「目でも楽しめるような食事」作りを心がけておられる。月1回は、外出に出かけて、好きなものを選んで食べる機会も作っておられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームつばさ

(ユニット名) 2階

記入者(責任者)

氏名 仙波 ともえ

評価完了日

平成22年8月31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 廊下とリビングに理念と行動指針を掲げ、共有しながらケアに生かしている。	
			(外部評価) 事業所では「焦らず 怒らず 諦めず」と理念を掲げておられ、2年前には、理念に基づき、職員で「行動指針」を決めておられる。時にはミーティング時に話し合いされたり、ユニットによっては、行動指針を台所に大きく掲示して、職員が日常的に確認しながら取り組めるようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節の行事を設けて、地域の人にも参加してもらっている。 町内の祭りや行事にも参加している。	
			(外部評価) 散歩時、地域の方とあいさつを交わしたり、いも炊き等の行事時には地域の方達にも案内されて、利用者の方達とともに楽しむような機会を作っておられる。地方祭の宵祭りで、子ども達が提灯を持って回って来た時には、利用者の方達がお菓子を配られた。又、駐車場に神輿や獅子舞が来て、利用者も秋祭りを楽しまれた。近くにある介護施設の夏祭りに参加された際には、利用者も盆踊りの輪に入って踊られたようである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議等で、認知症への理解や支援方法を話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>2カ月に1度、運営推進会議を開き、ご家族にも参加 してもらっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>「観月祭」「夏祭り」等の事業所の行事を行う前に会 議を行い、その後利用者とともに行事に参加して、様 子を見ていただくようなこともある。外部評価結果に 基づき、取り組み等を報告をされたり、ご意見をうか がったりされている。</p>	<p>事業所では「本音を聞けるような会議」になるよう運 営推進会議をすすめていきたいと考えておられる。い ろいろな立場の方に参加いただけるような案内の工夫 や会議の議題、すすめ方を工夫されて、ホームや認知 症のことを多くの方に知ってもらう機会にされてはど うだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>難しいケースは、市担当者に相談しアドバイスをし てもらっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>運営推進会議の議題等について相談された際には、地 域包括支援センターの専門性を活かし「お話をし てもらおう等、協力してもらってはどうか」と提案いた だき、さっそく「成年後見制度、センターの役割」につ いて会議時お話ししていただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	(外部評価のみ)
			<p>やむを得ず転落予防のためのベッド柵を使用する場 合、ご家族に説明の上、同意書を得ている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>管理者や計画作成担当者の方は、各ユニットで日々、 職員とともにケアにかかわりながら「拘束」について 職員に話しておられる。時に、落ち着かないような状 態になる利用者もあるが、職員はご本人を抑制するの ではなく、そっと距離を置いて見守り等されている。 ユニット入口にはチャイムが付いており、出入り時に 鳴るようになっている。又、居室のドアに鈴を付け、 開閉時に鳴るようにされているところもあった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の資料をミーティング時に配布し、話し合いの機会をもっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度に関しては、運営推進会議にて地域包括支援センターの社会福祉士の方にお話ししてもらい、所内勉強会として学んだ。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結や解約の際は、何度も利用者やご家族と話し合い、お互いが納得できるよう心がけている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の開催や、玄関に意見箱を設置し、意見や要望を聞いている。 (外部評価) ご家族が来られた際は、勤務経験の長い職員がご家族への対応することに心掛け、ご家族が意見等を言いやすいように努めておられる。ユニット入口には、職員の顔写真と名前を掲示されてる。又、毎月のお手紙には、一言ご家族のかかわり等についてのお礼の言葉やメッセージを書き添えるようにされている。今年7月より、行事と合わせて「家族会」を開催されており、ご家族に認知症について理解いただけるよう、資料等を作成して配布された。	事業所は、家族会の取り組みを始められたところである。今後さらに継続して取り組みを重ね、ご家族との関係を深めながらご家族のご意見や感想をうかがっていかれてほしい。食事のメニューや入浴の支援の取り組み、利用者の受診時の結果や検査結果等、ご家族個々の知りたいこと探ったり、職員の利用者への対応等についても、気付いたこと等をうかがいながら事業所のケアの質の向上に向けての取り組みにつなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング時等、職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。 細かいことは管理者等が職員から意見や要望を聞き、職場環境の改善に努めている。 (外部評価) この一年間は、職員の入れ替わりも多々あったようであるが、管理者や計画作成担当者の方もシフトに入って、ともにケアに取り組み、新人職員等にアドバイスやサポートをされている。恒例の「観月祭」の行事には、日頃から職員と利用者で練習をしてきたハンドベルの演奏を披露された。毎月発行する「つばさ新聞」は、ユニットごとに作成されており、日々の暮らしの中で、職員が利用者の表情等のシャッターチャンスを見逃さず撮った写真を多く載せて新聞担当の職員が、コメント等も入れながらご家族に向けて作っておられる。又、ホームのブログ「姫ブログ」の更新や日々の食事のメニューを決めたり、さらに2ヶ月に1回の勉強会のテーマ等も職員で順番に担当されている。外部研修を受講された際には、ホーム内でも報告をして知識等を共有できるように努めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 少人数でユニットの業務をしているが、ほとんどの希望休暇や年次有給休暇を取得することができている。 モチベーションが上がるよう、勤務評価を行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を回覧し、それぞれが研修を受講できるよう研修日の勤務調整等を行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他グループホームとのイベント交流や、愛媛県グループホーム連絡協議会の相互研修に参加している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前調査で過去の生活歴を聞き、入居直後は利用前調査に関わった職員を中心に、利用者が何を考えているのか聞き出すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用前調査に関わった職員が面会時に声をかけたり、ご家族電話をしたりして利用者の様子を伝え、ご家族からの要望を聞くように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用前調査にて、他のサービスの方が良いと判断したときには他の施設を紹介している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の得意分野を活かし、食器洗い・洗濯物たたみ等をしてもらっている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>イベントや通院等にご家族に関わってもらい、本人とご家族の絆を大切にしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居以前に利用していた介護サービス事業所の職員の面会がある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>よく会話の中に出てくる「ご実家の近くで思い出深い桜のきれいなところ」を、ご家族に見ごろを教えていただき、見に行かれた。ご本人は、桜を見ながら、お若い頃の思い出を職員に話してくださったようである。お友達が来られて、一緒に演劇を観に出かけるような方もある。又、奥様が来られ、外食や買い物、イベント等、ご夫婦でいろいろなところに出かける方もある。美容院にパーマをかけに行かれる方もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	レクリエーションの時間には利用者全員が集まり、利用者同士が関わられるように支援している。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	ご家族が希望される場合はつばさ新聞を送付し、退所後も相談に応じている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	ケアプランの見直し時、普段の生活の中から思いや希望を話し合っている。
			(外部評価)	
			日々の中で職員は利用者に食事や入浴等の希望をお聞きしながらケアをすすめておられる。センター方式の書式を用いて利用者個々の希望や願いについて情報を集めておられたが、現在は、情報を集める作業が遅れがちになっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	利用前調査時にセンター方式を取り入れ、詳しく情報を取り、職員全員に伝達している。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	利用者に変化があればその都度、介護記録や連絡ノートに記入し、職員が必ず目を通すようにしている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前に計画作成担当者がケアプランを立て、ミーティング時に他の職員の意見を聞いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の意見を聞き取り、職員で話し合っ介護計画を作成されている。利用者と一緒に取り組むハンドベルやご本人のお好きな活動ができるような計画を作成されてるケースもあった。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録・連絡帳・訪問看護ステーション連絡帳に記入し、職員が把握できるようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その時々状況に合わせて対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外出や買い物、近隣住民との交流等、地域との関わりを絶たないように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 希望のかかりつけ医を受診できるようご家族にも協力 してもらい、訪問看護ステーションの協力のもと適切 な医療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 定期的な往診を受けておられる。又、専門医にはご家 族に付き添ってもらえるように協力をお願いされてい る。ご家族のご都合に合わせて職員が同行すること もある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週2回の訪問看護に備えて職員間でよく話し合い、情 報を共有している。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療の専門的なことは、訪問看護ステーションに協力 してもらい、情報交換や早期退院に努めている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期に関する考えをお互い話し合い、希望 の形にできるだけ近づけるよう努力し、難しいケー スは市担当者に事前に相談するようにしている。	
			(外部評価) ご家族に看とり支援の希望をお聞きした際に、ほぼ全 員のご家族が「ホームで最期までお願いしたい」と希 望されたようだ。事業所は看とりの経験もあり、その ような経験の中から利用者が「看とりの状態になるま でに、好きなことや得意なことを十分に行うことが大 事」と感じられたようである。又「夜間時等、職員数 が少なくなるような時間帯にはご家族の協力も必要に なる」こと等についてもご家族に伝えておられる。今 後、職員の「死生観教育と理解の確立」についても年 に1回は研修を行いたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急処置のマニュアルをすぐ見れるようにしている。大半の職員は普通救命講習を修了している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、避難訓練を行っている。避難訓練には地域住民にも参加してもらい協力をお願いしている。 (外部評価) 年1回、11月に消防署の協力を得て避難訓練を行ってられる。今回は、昼間の火災を想定して、利用者を実際に毛布を使って避難させる訓練を行われた。民生委員の方にも参加いただいた。利用者の中には喫煙者もいるが、決められた場所で吸うことを決めておられ、職員が煙草の本数と吸い殻の数を確認することになっている。	さらに、夜間を想定した訓練の実施や地震時についても、慌てず対応できるよう話し合いや訓練を重ねていかれてほしい。又、協力体制作りについても、地域の方も含め築いていかれてほしい。そのような取り組みをご家族等にも報告されてはどうだろうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 否定的な言葉は使わないようにし、プライバシーに配慮し声の大きさにも気を付けている。 (外部評価) 利用者によっては、お一人で散歩に行かれるのが日課になっている方もあり、ご家族との話し合いで、これまでの暮らしを続けられるよう職員は見守っておられる。ご家族と出かけて買って来られたお花の苗を、花壇に植えて世話されていた。	職員の言葉掛けや言葉のスピード等にも、利用者のペースへの配慮が必要な場面が見受けられる。この機会を活かして、全職員で点検されたり話し合われてみてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員が一人一人に声かけをして、話を聞くようにしている。何か希望がある場合はできるだけ本人の意思に沿うように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人一人のペースを大切にしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの理美容室がある人はそこに行き、好きな髪型にしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者のできることを見極めて、できる限り協力してもらっている。	
			(外部評価) 行動指針の一つに「心のこもったあたたかい食事を、おいしく食べてもらえるよう心掛けます」と掲げて、事業所では、「手作りの食事」を利用者においしく食べてもらえるように取り組まれている。野菜は、近くの八百屋に注文して、利用者と一緒に取りに行くようにされている。食材を小さく切って支援される場合でも、お好きなものは、形をそのまま残るように切る等、工夫され、職員は「目でも楽しめるような食事」作りを心がけておられる。月1回は、外出に出かけて、お好きなものを選んで食べる機会も作っておられる。誕生日には、お好きなお寿司やお刺身、ケーキでお祝いをされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) お茶等の水分は、いつでも摂取できるようにテーブルの上のポットに用意している。 栄養確保の困難な利用者には、医師との連携によって摂取しやすい形態にしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけだけではなく、口腔ケアが実行できるように見守りや介助を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			声かけや誘導にて排泄のタイミングを計り、できる限りトイレでの排泄を行っている。	
			(外部評価)	
			排泄の記録をもとに、声かけや誘導にて利用者がトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			野菜中心の献立で、水分を補うため、おやつにヨーグルトやゼリーを取り入れている。	
			(外部評価)	
			お風呂は毎日準備し、入浴剤等で気分転換ができるよう温度や空調に気を配っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			調査訪問時の昼食後、職員は、利用者個々に「今日はお風呂に入りますか」と聞いておられた。お一人で着替え等を準備して入浴される方もある。職員は、利用者が浴槽で温まる時には足をマッサージされたり、足の指の間等も清潔に保てるように気を付けて洗うようにされている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時の昼食後、職員は、利用者個々に「今日はお風呂に入りますか」と聞いておられた。お一人で着替え等を準備して入浴される方もある。職員は、利用者が浴槽で温まる時には足をマッサージされたり、足の指の間等も清潔に保てるように気を付けて洗うようにされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			天気の良い日には、布団を干したり換気をしたりしている。	
			(外部評価)	
			天気の良い日には、布団を干したり換気をしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が薬について把握している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理・食事の後片付け・洗濯・掃除等一緒に行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月イベントを行い、全員が外出できるように支援している。季節に応じた企画やご家族の参加も促している。	
			(外部評価) 注文した野菜を利用者と八百屋に取りに行かれたり、花壇の手入れや隣の公園に散歩に出られたり、時には公園でお茶を楽しむこともある。毎月行事で出かける計画をされており、今月の下旬には奥道後の菊花展を見に行かれる予定になっていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額の金銭は自分で管理し、買い物や自販機で飲料を購入する利用者もいる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば自由に電話をかけることができる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングやユニット入口には季節に合った飾り付けをしている。 リビング、居室、廊下は毎日掃除し清潔を保っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の窓からは、周りの田畑や山の季節の移り変わりが眺められる。利用者と職員で協力して紙を小さく丸め、大きな干支の絵を作って貼っておられ、調査訪問時にも来年の干支の絵を作る準備をされていた。居間のテーブルは4つあり、又、廊下等にもソファがところどころにあって、利用者はそれぞれに過ごしておられた。週刊誌を置いておられた。</p>	<p>車いすを使用されている利用者の「洗面所の使用しやすさ」について不便なことがないか点検されてみてほしい。利用者の清潔を保つための設備であり、又、自立支援をすすめる事業所でもあることから、法人も含めて職員等の意見も聞きながら検討されてみてほしい。</p>
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングやセカンドリビングにソファを設置し、利用者同士でお話したり、テレビを見たり、手芸をしたりと思い思いに過ごせるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に本人が使用していたものを持ち込んでもらい、できるだけロケーションダメージの無いように配慮している。 危険なものは一部お預かりしているが、本人やご家族の希望に沿うようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入口には、ご本人の顔写真と名前が付けてあった。ソファを置いておられる方もあり、ご家族が来られた際には座っておしゃべりされる。仏壇を持ち込んでおられる方は、時々、位牌に話しかけてられる時もあるようだ。カレンダーに受診日を記入されているものを貼っておられたり、ご家族との写真を大切に飾っておられる方もある。居室の窓から布団を干している方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一目で自分の居室が分かるように表札を取り付け、トイレやお風呂等分かりやすい表示を心掛けている。</p>	